

# 平成23年度 第22回 関東高等学校バスケットボール新人大会

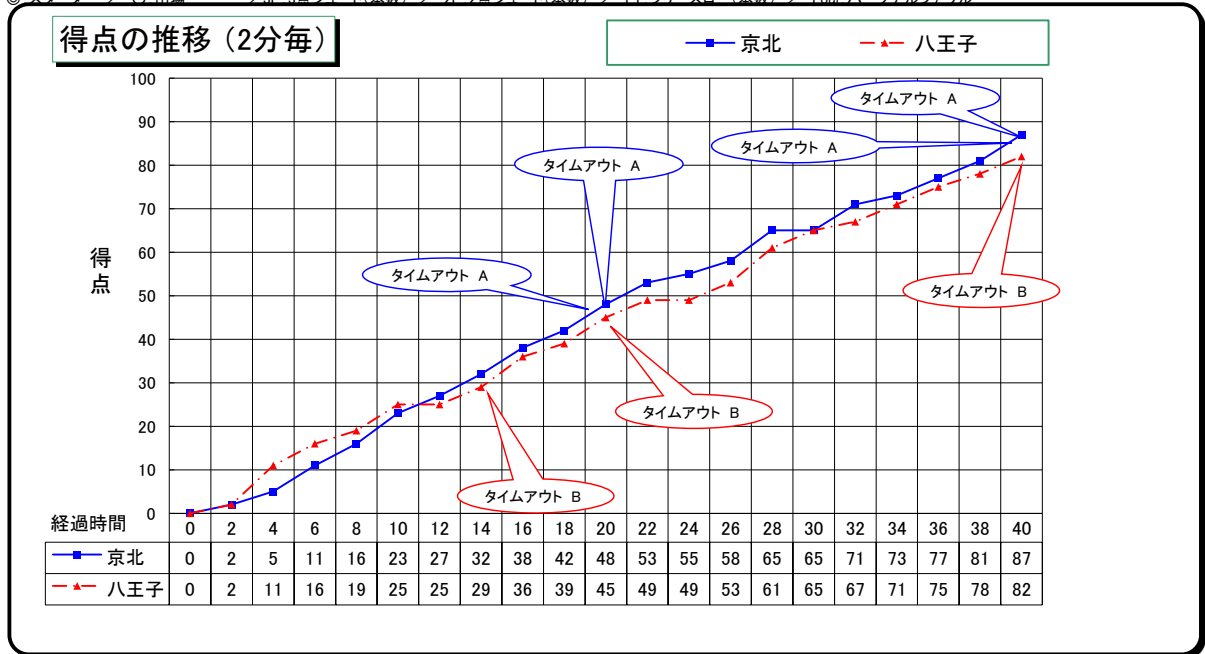
## 【男子】 <決勝>

平成24年 2月12日(日)	ひたちなか市総合運動公園総合体育館	大会2日目	Mコート	第4試合 14:30~
<チームA> <span style="font-size: 2em; color: blue;">京北</span> 東京	<span style="font-size: 3em;">87</span>	$\left\{ \begin{array}{l} 23 \text{ 1Q} \quad 25 \\ 25 \text{ 2Q} \quad 20 \\ 17 \text{ 3Q} \quad 20 \\ 22 \text{ 4Q} \quad 17 \end{array} \right\}$	<span style="font-size: 3em;">82</span>	<チームB> <span style="font-size: 2em; color: red;">八王子</span> 東京
主 審: 吉田 憲生(指) 第1副審: 二宮 隆二(茨) 第2副審: 谷古宇 孝(東)				

S	No	選手名	得点	3P	2P	FT	Foul
◎	4	濹田 貴大	11		3	5	3
◎	5	新川 敬大	19		9	1	2
◎	6	石原 卓	12	2	3		2
◎	7	吉川 治耀	9	1	3		2
○	8	川久保 駿	5	1	1		1
	9	徳永 滋紀					
◎	10	浅見 陸人	31		15	1	3
	11	平岩アンソニーコリン					
	12	吉田 亘					
	13	福本 哲也					
	14	浅香 陽光					
	15	盛満 拓郎					
	16	山口 尚志					
	17	鈴木 竜誠					
	18	堀口 元気					
コーチ		田渡 優					
合計			87	4	34	7	13

S	No	選手名	得点	3P	2P	FT	Foul
	4	篠 将人					
◎	5	佐々木 和也	18	3	3	3	3
◎	6	新号 健	22	1	8	3	3
◎	7	バイセディイサライジャニ	28		13	2	2
◎	8	板垣 翔太	12		5	2	5
◎	9	野間 進太郎	2		1		1
○	10	高山 椋					1
	11	高橋 雄太					
	12	清水 太一					
	13	大塚 尚弘					
	14	五十嵐 拓也					
	15	稲川 翔平					
	16	渡辺 裕二					
	17	森本 航洋					
	18	小林 一輝					
コーチ		石川 淳一					
合計			82	4	30	10	15

◎:スターター / ○:出場 / ◯:3P:3点シュート(本数) / ◯:2P:2点シュート(本数) / FT:フリースロー(本数) / Foul:パーソナルファウル



戦 評	記入者: 斧田 典之
-----	------------

決勝の舞台に上がってきたのは京北と八王子。東京都代表校同士の顔合わせとなった。第1Pは両チームともにハーフコートマンツーマンディフェンス。立ち上がりリベースを掴んだのは八王子。⑦イサのインサイドでの1対1、⑤佐々木の3pなど、多彩な攻めを見せて得点を重ねる。京北は時折折離されかけながらも、アウトサイドでの速いパス回しから⑩浅見のミドルシュート、④濹田のドライブインを起点とした攻撃で食らいつく。終了間際には⑧川久保の3pが決まり2点差まで追いつき、23-25と八王子リードで第1P終了。

第2P序盤は両者譲らぬ攻防。京北が⑩浅見のミドルシュートで逆転すると、すぐに八王子⑥新号が3pを決め、さらに京北⑥石原が3pを決め返す。中盤から京北は⑤新川のオフェンスリバウンド、⑩浅見のミドルシュートが効果的で、優勢に試合を進める。このまま点差が広がりそうな展開の中、八王子も⑥新号が大事な場面でシュートを決める。48-45と京北リードで終了。

第3P、京北は⑩浅見や⑤新川がうまく相手のセンターを外へと誘い出す動きをして、味方のオフェンスリバウンド、④濹田のドライブインの成功へとつなげていき、オフェンスのリズムを掴む。しかし八王子も、⑧板垣のアウトサイドでボールを受けるプレイやスクリーンプレイを利用して、⑦イサがインサイドでプレイしやすい状況を作ったうえでボールを集める。⑦イサもこれに応じて次々とゴール下でのシュートを決め、65-65の同点。決勝戦にふさわしい白熱の試合展開となる。

第4P、八王子は⑧板垣が、京北は⑤新川、④濹田が、それぞれ気迫のこもったオフェンスリバウンドで終盤までお互いに流れを引き寄せあう。残り3分、八王子はここまで奮闘してきた⑧板垣がファウルアウトするが、それでも懸命に京北に食らいつく。残り14秒、3点差の場面で八王子が仕掛けたファウルゲームが功を奏しかけるが、京北⑥石原のスティールからのレイアップで逆に5点差となり、87-82で試合終了。⑩浅見がこそぞという所でシュートを決め続け、インサイドではチーム全員で守りきった京北が粘る八王子を振り切り、都大会での雪辱を果たすとともに、2年ぶりとなる関東大会での優勝を飾った。